



コンソールエージェントのメンテナンス NetApp Console setup and administration

NetApp
February 26, 2026

目次

コンソールエージェントのメンテナンス	1
コンソールエージェント用の VCenter または ESXi ホストを維持する	1
VMメンテナンスコンソールにアクセスする	1
Webベースのコンソールアクセス用にCA署名証明書をインストールする	4
HTTPS証明書をインストールする	4
コンソールのHTTPS証明書を更新する	6
プロキシサーバーを使用するようにコンソールエージェントを構成する	6
サポートされている構成	7
コンソールエージェントで明示的なプロキシを有効にする	7
コンソールエージェントの透過プロキシを有効にする	8
インターネットへのアクセスが失われた場合は、コンソールエージェントプロキシを更新します。	9
直接APIトラフィックを有効にする	9
コンソールエージェントのトラブルシューティング	9
一般的なエラーメッセージと解決策	10
コンソールエージェントのステータスを確認する	10
コンソールエージェントのバージョンを表示する	11
ネットワークアクセスを確認する	11
コンソールエージェントのインストールに関する問題	12
NetAppサポートと連携する	13
Google Cloud NAT ゲートウェイ使用時のダウンロード失敗を修正	14
NetAppナレッジベースからヘルプを入手する	14
コンソールエージェントのアップグレードを管理する	14
コンソールエージェントをアップグレードする	15
コンソールエージェントをアンインストールして削除する	15
アウトバウンド接続がある場合はエージェントをアンインストールします	15
アウトバウンド接続がない場合にエージェントをアンインストールする	16
コンソールからコンソールエージェントを削除する	16

コンソールエージェントのメンテナンス

コンソールエージェント用の VCenter または ESXi ホストを維持する

コンソール エージェントを展開した後、既存の VCenter または ESXi ホストに変更を加えることができます。たとえば、コンソール エージェントをホストする VM インスタンスの CPU または RAM を増やすことができます。

VM Web コンソールを使用して次のメンテナンス タスクを実行します。

- ディスクサイズを増やす
- エージェントを再起動する
- 静的ルートを更新する
- 検索ドメインを更新する

制限事項

コンソール経由でのエージェントのアップグレードはまだサポートされていません。さらに、IP アドレス、DNS、ゲートウェイに関する情報のみを表示できます。

VMメンテナンスコンソールにアクセスする

VSphere クライアントからメンテナンス コンソールにアクセスできます。

手順

1. VSphere クライアントを開き、VCenter にログインします。
2. コンソール エージェントをホストする VM インスタンスを選択します。
3. **Web** コンソールの起動 を選択します。
4. VM インスタンスの作成時に指定したユーザー名とパスワードを使用して、VM インスタンスにログインします。ユーザー名は `maint` パスワードは、VM インスタンスの作成時に指定したパスワードです。

メインユーザーのパスワードを変更する

パスワードを変更することができます `maint` ユーザー。

手順

1. VSphere クライアントを開き、VCenter にログインします。
2. コンソール エージェントをホストする VM インスタンスを選択します。
3. **Web** コンソールの起動 を選択します。
4. VM インスタンスの作成時に指定したユーザー名とパスワードを使用して、VM インスタンスにログインします。ユーザー名は `maint` パスワードは、VM インスタンスの作成時に指定したパスワードです。
5. 入力 `1` 表示するには `System Configuration` メニュー。

6. 入力 `1` メンテナンス ユーザーのパスワードを変更し、画面の指示に従います。

VMインスタンスのCPUまたはRAMを増やす

コンソール エージェントをホストする VM インスタンスの CPU または RAM を増やすことができます。

VCenter または ESXi ホストで VM インスタンス設定を編集し、メンテナンス コンソールを使用して変更を適用します。

VSphereクライアントでの手順

1. VSphere クライアントを開き、VCenter にログインします。
2. コンソール エージェントをホストする VM インスタンスを選択します。
3. VM インスタンスを右クリックし、[設定の編集] を選択します。
4. /opt または /var パーティションに使用されるハード ドライブの領域を増やします。
 - a. /opt に使用されるハード ドライブの領域を増やすには、ハード ディスク **2** を選択します。
 - b. /var に使用されるハードドライブの容量を増やすには、ハード ディスク **3** を選択します。
5. 変更を保存します。

メンテナンスコンソールの手順

1. VSphere クライアントを開き、VCenter にログインします。
2. コンソール エージェントをホストする VM インスタンスを選択します。
3. **Web** コンソールの起動 を選択します。
4. VM インスタンスの作成時に指定したユーザー名とパスワードを使用して、VM インスタンスにログインします。ユーザー名は `maint` パスワードは、VM インスタンスの作成時に指定したパスワードです。
5. 入力 `1 to view the `System Configuration`メニュー。
6. 入力 `2` 画面上の指示に従います。コンソールは新しい設定をスキャンし、パーティションのサイズを増やします。

エージェントVMのネットワーク設定を表示する

VSphere クライアントでエージェント VM のネットワーク設定を表示して、ネットワークの問題を確認またはトラブルシューティングします。次のネットワーク設定は表示のみ可能で、更新はできません: IP アドレスと DNS の詳細。

手順

1. VSphere クライアントを開き、VCenter にログインします。
2. コンソール エージェントをホストする VM インスタンスを選択します。
3. **Web** コンソールの起動 を選択します。
4. VM インスタンスの作成時に指定したユーザー名とパスワードを使用して、VM インスタンスにログインします。ユーザー名は `maint` パスワードは、VM インスタンスの作成時に指定したパスワードです。
5. 入力 `2` 表示するには `Network Configuration`メニュー。
6. 対応するネットワーク設定を表示するには、1 ~ 6 の数字を入力します。

エージェントVMの静的ルートを更新する

必要に応じて、エージェント VM の静的ルートを追加、更新、または削除します。

手順

1. VSphere クライアントを開き、VCenter にログインします。
2. コンソール エージェントをホストする VM インスタンスを選択します。
3. **Web** コンソールの起動 を選択します。
4. VM インスタンスの作成時に指定したユーザー名とパスワードを使用して、VM インスタンスにログインします。ユーザー名は `maint` パスワードは、VM インスタンスの作成時に指定したパスワードです。
5. 入力 `2` 表示するには `Network Configuration` メニュー。
6. 入力 `7` 静的ルートを更新し、画面の指示に従います。
7. Enterキーを押します。
8. 必要に応じて、追加の変更を加えます。
9. 入力 `9` 変更をコミットします。

エージェントVMのドメイン検索設定を更新する

エージェント VM の検索ドメイン設定を更新できます。

手順

1. VSphere クライアントを開き、VCenter にログインします。
2. コンソール エージェントをホストする VM インスタンスを選択します。
3. **Web** コンソールの起動 を選択します。
4. VM インスタンスの作成時に指定したユーザー名とパスワードを使用して、VM インスタンスにログインします。ユーザー名は `maint` パスワードは、VM インスタンスの作成時に指定したパスワードです。
5. 入力 `2` 表示するには `Network Configuration` メニュー。
6. 入力 `8` ドメイン検索設定を更新し、画面の指示に従います。
7. Enterキーを押します。
8. 必要に応じて、追加の変更を加えます。
9. 入力 `9` 変更をコミットします。

エージェント診断ツールにアクセスする

コンソール エージェントの問題をトラブルシューティングするための診断ツールにアクセスします。NetApp サポートは、問題のトラブルシューティング時にこれを実行するように依頼する場合があります。

手順

1. VSphere クライアントを開き、VCenter にログインします。
2. コンソール エージェントをホストする VM インスタンスを選択します。
3. **Web** コンソールの起動 を選択します。

4. VM インスタンスの作成時に指定したユーザー名とパスワードを使用して、VM インスタンスにログインします。ユーザー名は `maint` パスワードは、VM インスタンスの作成時に指定したパスワードです。
5. 入力 `3` サポートと診断メニューを表示します。
6. 入力 `1` 診断ツールにアクセスし、画面上の指示に従います。+ たとえば、すべてのエージェント サービスが実行されていることを確認できます。"[コンソールエージェントのステータスを確認する](#)"。

エージェント診断ツールにリモートでアクセスする

Putty などのツールを使用して、診断ツールにリモートでアクセスできます。ワンタイム パスワードを割り当てて、エージェント VM への SSH アクセスを有効にします。

SSH アクセスにより、コピー アンド ペーストなどの高度なターミナル機能が有効になります。

手順

1. VSphere クライアントを開き、VCenter にログインします。
2. コンソール エージェントをホストする VM インスタンスを選択します。
3. **Web** コンソールの起動 を選択します。
4. VM インスタンスの作成時に指定したユーザー名とパスワードを使用して、VM インスタンスにログインします。ユーザー名は `maint` パスワードは、VM インスタンスの作成時に指定したパスワードです。
5. 入力 `3` 表示するには `Support and Diagnostics` メニュー。
6. 入力 `2` 診断ツールにアクセスし、画面上の指示に従って 24 時間で期限が切れるワンタイム パスワードを設定します。
7. Putty などのSSHツールを使用して、ユーザー名でエージェントVMに接続します。`diag` および設定したワンタイムパスワード。

Webベースのコンソールアクセス用にCA署名証明書をインストールする

NetApp Consoleを制限モードまたはプライベートモードで使用する場合、ユーザーインターフェイスには、クラウドリージョンまたはオンプレミスに導入されているConsole エージェント仮想マシンからアクセスできます。デフォルトでは、Consoleは自己署名SSL証明書を使用して、Consoleエージェント上で実行されているWebベースのコンソールへの安全なHTTPSアクセスを提供します。

ビジネスで必要な場合は、証明機関 (CA) によって署名された証明書をインストールできます。これにより、自己署名証明書よりも優れたセキュリティ保護が提供されます。証明書をインストールすると、ユーザーが Web ベースのコンソールにアクセスするときに、コンソールは CA 署名付き証明書を使用します。

HTTPS証明書をインストールする

コンソール エージェント上で実行されている Web ベースのコンソールに安全にアクセスするために、CA によって署名された証明書をインストールします。

タスク概要

次のいずれかのオプションを使用して証明書をインストールできます。

- コンソールから証明書署名要求 (CSR) を生成し、証明書要求を CA に送信して、CA 署名証明書をコンソール エージェントにインストールします。

コンソールが CSR を生成するために使用するキー ペアは、コンソール エージェントに内部的に保存されます。コンソール エージェントに証明書をインストールすると、コンソールは同じキー ペア (秘密キー) を自動的に取得します。

- すでに持っている CA 署名付き証明書をインストールします。

このオプションを選択すると、CSR はコンソールを通じて生成されません。CSR を別途生成し、秘密鍵を外部に保存します。証明書をインストールするときに、コンソールに秘密キーを提供します。

手順

1. *管理 > エージェント*を選択します。
2. *概要*ページで、コンソール エージェントのアクション メニューを選択し、*HTTPS セットアップ*を選択します。

編集するには、コンソール エージェントに接続する必要があります。

3. HTTPS セットアップ ページで、証明書署名要求 (CSR) を生成するか、独自の CA 署名証明書をインストールして証明書をインストールします。

オプション	説明
CSRを生成する	<p>a. コンソール エージェント ホストのホスト名または DNS (共通名) を入力し、[CSR の生成] を選択します。</p> <p>コンソールに証明書署名要求が表示されます。</p> <p>b. CSR を使用して、SSL 証明書要求を CA に送信します。</p> <p>証明書には、Privacy Enhanced Mail (PEM) Base-64 エンコード X.509 形式を使用する必要があります。</p> <p>c. 証明書ファイルをアップロードし、[インストール] を選択します。</p>
独自のCA署名証明書をインストールする	<p>a. *CA 署名証明書のインストール*を選択します。</p> <p>b. 証明書ファイルと秘密キーの両方をロードし、[インストール] を選択します。</p> <p>証明書には、Privacy Enhanced Mail (PEM) Base-64 エンコード X.509 形式を使用する必要があります。</p>

結果

コンソール エージェントは、CA 署名証明書を使用して安全な HTTPS アクセスを提供するようになりました。次の画像は、安全なアクセス用に構成されたエージェントを示しています。

HTTPS Certificate

[Change Certificate](#)

✔ HTTPS Setup is active

Expiration: Aug 15, 2029 10:09:01 am

Issuer: C=IL, ST=Israel, L=Tel Aviv, O=NetApp, OU=Dev, CN= Localhost, E=Admin@netapp.com

Subject: C=IL, ST=Israel, L=Tel Aviv, O=NetApp, OU=Dev, CN= Localhost, E=Admin@netapp.com

Certificate: [View CSR](#)

コンソールのHTTPS証明書を更新する

安全なアクセスを確保するには、エージェントの HTTPS 証明書が期限切れになる前に更新する必要があります。証明書の有効期限が切れる前に更新しないと、ユーザーが HTTPS を使用して Web コンソールにアクセスしたときに警告が表示されます。

手順

1. *管理 > エージェント*を選択します。
2. *概要*ページで、コンソール エージェントのアクション メニューを選択し、*HTTPS セットアップ*を選択します。

有効期限を含む証明書の詳細が表示されます。

3. *証明書の変更*を選択し、手順に従って CSR を生成するか、独自の CA 署名証明書をインストールします。

プロキシサーバーを使用するようにコンソールエージェントを構成する

企業ポリシーでインターネットへのすべての通信にプロキシ サーバーの使用が求められている場合は、そのプロキシ サーバーを使用するようにエージェントを構成する必要があります。インストール時にコンソール エージェントがプロキシ サーバーを使用するように構成しなかった場合は、いつでもそのプロキシ サーバーを使用するようにコンソール エージェントを構成できます。

エージェントのプロキシ サーバーは、パブリック IP または NAT ゲートウェイなしでアウトバウンドのインターネット アクセスを可能にします。プロキシ サーバーは、Cloud Volumes ONTAPシステムではなく、コンソール エージェントに対してのみ送信接続を提供します。

Cloud Volumes ONTAPシステムにアウトバウンド インターネット アクセスがない場合、コンソールはコンソール エージェントのプロキシ サーバーを使用するようにシステムを構成します。コンソール エージェントのセキュリティ グループがポート 3128 経由の受信接続を許可していることを確認する必要があります。コンソール エージェントを展開した後、このポートを開きます。

コンソール エージェント自体に送信インターネット接続がない場合、Cloud Volumes ONTAPシステムは構成されたプロキシ サーバーを使用できません。

サポートされている構成

- Cloud Volumes ONTAPシステムにサービスを提供するエージェントでは、透過プロキシ サーバーがサポートされています。Cloud Volumes ONTAPでNetAppデータ サービスを使用する場合は、透過プロキシ サーバーを使用できるCloud Volumes ONTAP専用のエージェントを作成します。
- 明示的なプロキシ サーバーは、Cloud Volumes ONTAPシステムを管理するエージェントやNetAppデータ サービスを管理するエージェントを含むすべてのエージェントでサポートされています。
- HTTP と HTTPS。
- プロキシ サーバーはクラウドまたはネットワーク内に配置できます。



プロキシを設定したら、プロキシの種類を変更することはできません。プロキシ タイプを変更する必要がある場合は、コンソール エージェントを削除し、新しいプロキシ タイプで新しいエージェントを追加します。

コンソールエージェントで明示的なプロキシを有効にする

プロキシ サーバーを使用するようにコンソール エージェントを構成すると、そのエージェントとそれが管理するCloud Volumes ONTAPシステム (HA メディエーターを含む) はすべてプロキシ サーバーを使用します。

この操作により、コンソール エージェントが再起動されます。続行する前に、コンソール エージェントがアイドル状態であることを確認してください。

手順

1. *管理 > エージェント*を選択します。
2. *概要*ページで、コンソール エージェントのアクション メニューを選択し、*エージェントの編集*を選択します。

編集するには、コンソール エージェントがアクティブである必要があります。

3. *HTTP プロキシ構成*を選択します。
4. 構成タイプ フィールドで 明示的なプロキシ を選択します。
5. *プロキシを有効にする*を選択します。
6. 構文を使用してサーバーを指定します `http://address:port`または `https://address:port`
7. サーバーに基本認証が必要な場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。

次の点に注意してください。

- ユーザーはローカル ユーザーまたはドメイン ユーザーになります。
- ドメインユーザーの場合は、\ の ASCII コードを次のように入力する必要があります: domain-name%92user-name

例: netapp%92proxy

- コンソールは @ 文字を含むパスワードをサポートしていません。

8. *保存*を選択します。

コンソールエージェントの透過プロキシを有効にする

Cloud Volumes ONTAPのみが、コンソール エージェントでの透過プロキシの使用をサポートしています。Cloud Volumes ONTAPに加えてNetAppデータ サービスを使用する場合は、データ サービス用またはCloud Volumes ONTAP用として別のエージェントを作成する必要があります。

透過プロキシを有効にする前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- エージェントは、透過プロキシ サーバーと同じネットワークにインストールされます。
- プロキシ サーバーで TLS 検査が有効になっています。
- 透過プロキシ サーバーで使用されている証明書と一致する PEM 形式の証明書があります。
- Cloud Volumes ONTAP以外のNetAppデータ サービスにはコンソール エージェントを使用しないでください。

既存のエージェントを透過プロキシ サーバーを使用するように構成するには、コンソール エージェント ホストのコマンド ラインから使用できるコンソール エージェント メンテナンス ツールを使用します。

プロキシ サーバーを構成すると、コンソール エージェントが再起動します。続行する前に、コンソール エージェントがアイドル状態であることを確認してください。

手順

プロキシ サーバーの PEM 形式の証明書ファイルがあることを確認します。証明書がない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせ取得してください。

1. コンソール エージェント ホストでコマンド ライン インターフェイスを開きます。
2. コンソール エージェント メンテナンス ツール ディレクトリに移動します。
`/opt/application/netapp/service-manager-2/agent-maint-console`
3. 透過プロキシを有効にするには、次のコマンドを実行します。`/home/ubuntu/<certificate-file>.pem` プロキシ サーバーのディレクトリと証明書ファイルの名前です。

```
./agent-maint-console proxy add -c /home/ubuntu/<certificate-file>.pem
```

証明書ファイルが PEM 形式であり、コマンドと同じディレクトリに存在することを確認するか、証明書ファイルへのフルパスを指定します。

```
./agent-maint-console proxy add -c /home/ubuntu/<certificate-file>.pem
```

コンソールエージェントの透過プロキシを変更する

コンソールエージェントの既存の透過プロキシサーバーを更新するには、`proxy update` コマンドを使用して透過プロキシサーバーを削除するか、`proxy remove` 指示。詳細については、次のドキュメントを参照してください。"[エージェントメンテナンスコンソール](#)"。



プロキシを設定したら、プロキシの種類を変更することはできません。プロキシタイプを変更する必要がある場合は、コンソール エージェントを削除し、新しいプロキシタイプで新しいエージェントを追加します。

インターネットへのアクセスが失われた場合は、コンソールエージェントプロキシを更新します。

ネットワークのプロキシ構成が変更されると、エージェントはインターネットにアクセスできなくなる可能性があります。たとえば、誰かがプロキシサーバーのパスワードを変更したり、証明書を更新したりした場合などです。この場合、コンソール エージェント ホストから直接 UI にアクセスし、設定を更新する必要があります。コンソール エージェント ホストへのネットワーク アクセスがあり、コンソールにログインできることを確認します。

直接APIトラフィックを有効にする

プロキシサーバーを使用するようにコンソール エージェントを構成した場合は、プロキシを経由せずに API 呼び出しをクラウド プロバイダー サービスに直接送信するために、コンソール エージェントで直接 API トラフィックを有効にすることができます。AWS、Azure、または Google Cloud で実行されているエージェントはこのオプションをサポートします。

Cloud Volumes ONTAPで Azure Private Links を無効にしてサービス エンドポイントを使用する場合は、直接 API トラフィックを有効にします。そうしないと、トラフィックは適切にルーティングされません。

["Cloud Volumes ONTAPで Azure Private Link またはサービス エンドポイントを使用する方法の詳細"](#)

手順

1. *管理 > エージェント*を選択します。
2. *概要*ページで、コンソール エージェントのアクション メニューを選択し、*エージェントの編集*を選択します。

編集するには、コンソール エージェントがアクティブである必要があります。

3. *直接 API トラフィックのサポート*を選択します。
4. チェックボックスを選択してオプションを有効にし、[保存] を選択します。

コンソールエージェントのトラブルシューティング

コンソール エージェントの問題をトラブルシューティングするには、自分で問題を確認するか、NetAppサポートに問い合わせ、システム ID、エージェント バージョン、または最新のAutoSupportメッセージを尋ねられることがあります。

NetAppサポートサイトのアカウントをお持ちの場合は、"[NetAppナレッジベース](#)。"

一般的なエラーメッセージと解決策

次の表に、一般的なエラーメッセージとその修正方法を示します。

エラーメッセージ	説明	何をするか
コンソールエージェントUIを読み込めません	エージェントのインストールに失敗しました	<ul style="list-style-type: none">• Service Manager サービスがアクティブであることを確認します。• すべてのコンテナが実行されていることを確認します。• ファイアウォールがポート 8888 でのサービスへのアクセスを許可していることを確認してください。• それでも問題が解決しない場合は、サポートにお問い合わせください。
NetAppエージェントUIにアクセスできません	このメッセージは、エージェントの IP アドレスにアクセスしようとしたときに表示されます。エージェントに適切なネットワーク アクセスがない場合や不安定な場合は、初期化に失敗する可能性があります。	<ul style="list-style-type: none">• コンソール エージェントに接続します。• サービスマネージャサービスを確認する• エージェントに必要なネットワーク アクセス権があることを確認します。"必要なネットワーク アクセス エンドポイントの詳細について説明します。"
エージェント設定を読み込めません	エージェント設定ページにアクセスしようとする、コンソールにこのメッセージが表示されます。	<ul style="list-style-type: none">• OCCM コンテナが実行中であり、動作しているかどうかを確認します。• 問題が解決しない場合は、サポートにお問い合わせください。
エージェントのサポート情報を読み込めません。	エージェントがサポート アカウントにアクセスできない場合、このメッセージが表示されます。	<ul style="list-style-type: none">• エージェントが必要なエンドポイントへの送信アクセス権を持っていることを確認します。"必要なネットワーク アクセス エンドポイントの詳細について説明します。"

コンソールエージェントのステータスを確認する

コンソール エージェントを確認するには、次のいずれかのコマンドを使用します。すべてのサービスのステータスは「実行中」になっている必要があります。そうでない場合は、NetAppサポートにお問い合わせください。

コンソール エージェント診断へのアクセスの詳細については、次のトピックを参照してください。



- ["コンソール エージェントのステータスを確認する \(Linux ホスト展開の場合\)"](#)
- ["コンソール エージェントのステータスを確認する \(VCenter 展開の場合\)"](#)

Docker (Ubuntu および VCenter のデプロイメント用)

```
docker ps -a
```

Podman (RedHat Enterprise Linux デプロイメント用)

```
podman ps -a
```

コンソールエージェントのバージョンを表示する

コンソール エージェントのバージョンを表示してアップグレードを確認するか、NetApp の担当者と共有してください。

手順

1. *管理 > サポート > エージェント*を選択します。

コンソールのページ上部にバージョンが表示されます。

ネットワークアクセスを確認する

コンソール エージェントに必要なネットワーク アクセスがあることを確認します。"[必要なネットワーク アクセス ポイントの詳細について説明します。](#)"

コンソールエージェントで構成チェックを実行する

コンソールまたはエージェント メンテナンス コンソールからコンソール エージェントの構成チェックを実行し、それらが接続されていることを確認します。

エージェント メンテナンス コンソールを使用して構成チェックを実行することもできます。"[config-checker validate コマンドの使用について詳しく学習します。](#)"



ステータスが「接続済み」であるエージェントのみを検証できます。

コンソールからの手順

1. *管理 > エージェント*を選択します。
2. 確認するコンソール エージェントのアクション メニューを選択し、[検証] を選択します。

The screenshot shows the NetApp Console interface for managing agents. The main table lists agents with their names, locations, statuses, and regions. A context menu is visible over the 'nikhilm' agent, with the 'Validate' option selected. The interface includes a search bar, a 'Deploy agent' button, and navigation tabs for 'Overview' and 'Agents (194)'.

検証には最大 15 分かかる場合があります。完了すると結果が表示されます。

コンソールエージェントのインストールに関する問題

インストールに失敗した場合は、レポートとログを表示して問題を解決してください。

次のディレクトリにあるコンソール エージェント ホストから、JSON 形式の検証レポートと構成ログに直接アクセスすることもできます。

```
/tmp/netapp-console-agents/logs
/tmp/netapp-console-agents/results.json
```



- 新しいエージェントの展開では、NetApp は次のエンドポイントをチェックします。"[ここに記載](#)"。アップグレードに使用した以前のエンドポイントを使用している場合、この構成チェックはエラーで失敗します。"[ここに記載](#)"。NetAppは、現在のエンドポイントへのアクセスを許可し、以前のエンドポイントへのアクセスをブロックするようにファイアウォールルールを更新することを推奨します。"[ネットワークをアップデートする方法を学ぶ](#)"。
- ファイアウォールのエンドポイントを更新しても、既存のエージェントは引き続き動作します。

手動インストールの構成チェックを無効にする

インストール中に送信接続を検証する構成チェックを無効にする必要がある場合があります。たとえば、Government Cloud 環境にエージェントを手動でインストールする場合は、構成チェックを無効にする必要があります。無効にしないと、インストールは失敗します。

手順

`com/opt/application/netapp/service-manager-2/config.json` ファイルで `skipConfigCheck` フラグを設定することで、構成チェックを無効にします。デフォルトでは、このフラグは `false` に設定されており、構成チェックによってエージェントの送信アクセスが検証されます。チェックを無効にするには、このフラグを `true` に設定します。この手順を完了する前に、JSON 構文を理解しておいてください。

構成チェックを再度有効にするには、次の手順に従い、`skipConfigCheck` フラグを `false` に設定します。

手順

1. コンソール エージェント ホストに root または sudo 権限でアクセスします。
2. 変更を元に戻せるように、`/opt/application/netapp/service-manager-2/config.json` ファイルのバックアップ コピーを作成します。
3. 次のコマンドを実行して、サービス マネージャー 2 サービスを停止します。

```
systemctl stop netapp-service-manager.service
```

1. `/opt/application/netapp/service-manager-2/config.json` ファイルを編集し、`skipConfigCheck` フラグの値を `true` に変更します。

```
"skipConfigCheck": true
```

2. ファイルを保存します。
3. 次のコマンドを実行して、サービス マネージャー 2 サービスを再起動します。

```
systemctl restart netapp-service-manager.service
```

NetAppサポートと連携する

コンソール エージェントの問題を解決できない場合は、NetAppサポートにお問い合わせください。NetAppサポートでは、コンソール エージェント ID を要求したり、コンソール エージェント ログがまだない場合はそれを送信するよう要求したりすることがあります。

コンソールエージェントIDを見つける

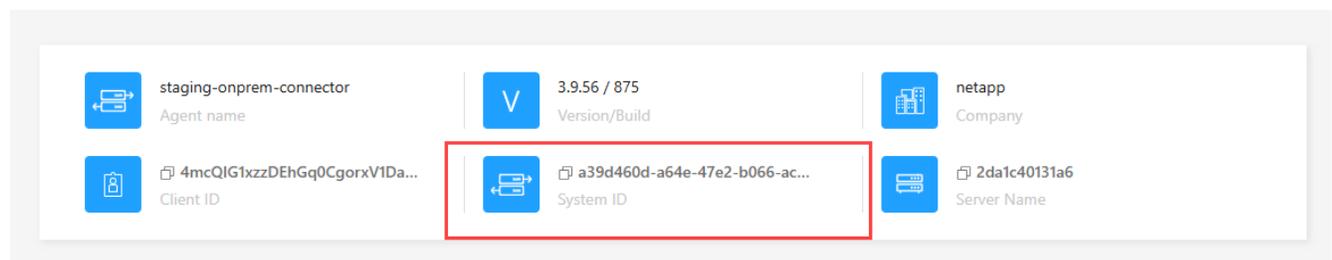
作業を開始するには、コンソール エージェントのシステム ID が必要になる場合があります。ID は通常、ライセンスとトラブルシューティングの目的で使用されます。

手順

1. *管理 > サポート > エージェント*を選択します。

システム ID はページの上部にあります。

例



2. ID にマウスを合わせてクリックするとコピーできます。

AutoSupportメッセージをダウンロードまたは送信する

問題が発生した場合、NetApp はトラブルシューティングのためにAutoSupportメッセージをNetAppサポートに送信するように依頼することがあります。



NetApp Consoleは、負荷分散のため、AutoSupportメッセージを送信するのに最大 5 時間かかります。緊急の場合は、ファイルをダウンロードして手動で送信してください。

手順

1. *管理 > サポート > エージェント*を選択します。
2. NetAppサポートに情報を送信する方法に応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - a. AutoSupportメッセージをローカル マシンにダウンロードするオプションを選択します。その後、優先する方法を使用してNetAppサポートに送信できます。
 - b. **Send AutoSupport** を選択すると、メッセージがNetAppサポートに直接送信されます。

Google Cloud NAT ゲートウェイ使用時のダウンロード失敗を修正

コンソール エージェントは、Cloud Volumes ONTAPのソフトウェア アップデートを自動的にダウンロードします。Google Cloud NAT ゲートウェイを使用している場合、設定によりダウンロードが失敗する可能性があります。ソフトウェア イメージを分割する部分の数を制限することで、この問題を修正できます。この手順はAPI を使用して完了する必要があります。

手順

1. 次の JSON を本文として、PUT リクエストを /occm/config に送信します。

```
{
  "maxDownloadSessions": 32
}
```

maxDownloadSessions の値は 1 または 1 より大きい任意の整数にすることができます。値が 1 の場合、ダウンロードされたイメージは分割されません。

32 は例の値であることに注意してください。値は NAT 構成と同時セッションの数によって異なります。

["/occm/config API呼び出しの詳細"](#)

NetAppナレッジベースからヘルプを入手する

["NetAppサポートチームが作成したトラブルシューティング情報を表示します"](#)。

コンソールエージェントのアップグレードを管理する

Console エージェントは、送信接続がある場合に自動的にアップグレードされます。Console エージェントに送信接続がない場合は、手動でアップグレードできます（プライベート モードなど）。

コンソールエージェントをアップグレードする

アップグレード プロセス中にコンソール エージェントを再起動する必要があるため、アップグレード中はNetApp Consoleは使用できません。

手順

1. コンソールエージェントソフトウェアを以下からダウンロードします。 "[NetAppサポート サイト](#)"。
2. インストーラーを Linux ホストにコピーします。
3. スクリプトを実行するための権限を割り当てます。

```
chmod +x /path/NetApp-Console-Agent-Offline-<version>
```

<version> は、ダウンロードしたコンソール エージェントのバージョンです。

4. インストール スクリプトを実行します。

```
sudo /path/NetApp-Console-Agent-Offline-<version>
```

ここで、<version> はダウンロードしたエージェントのバージョンです。

5. アップグレードが完了したら、管理 > サポート > エージェント に移動してエージェントのバージョンを確認できます。

コンソールエージェントをアンインストールして削除する

問題をトラブルシューティングしたり、ホストから完全に削除したりするには、コンソール エージェントをアンインストールします。実行する必要がある手順は、使用している展開モードによって異なります。環境からコンソール エージェントを削除したら、コンソールからも削除できます。

アウトバウンド接続がある場合はエージェントをアンインストールします

標準モードまたは制限モードを使用している場合 (つまり、エージェント ホストに送信接続がある場合)、以下の手順に従ってエージェントをアンインストールする必要があります。

手順

1. エージェントの Linux VM に接続します。
2. Linux ホストから、アンインストール スクリプトを実行します。

```
/opt/application/netapp/service-manager-2/uninstall.sh [silent]
```

silent は確認を求めることなくスクリプトを実行します。

アウトバウンド接続がない場合にエージェントをアンインストールする

エージェントに送信接続がない場合（たとえば、プライベート モードの場合）、ホストからエージェントソフトウェアを手動で削除する必要があります。

手順

1. コンソール エージェントの Linux VM に接続します。
2. Linux ホストから、次のコマンドを実行します：

```
/opt/application/netapp/ds/cleanup.sh  
rm -rf /opt/application/netapp/
```

3. Linux ホストから、古い未使用のコンテナ イメージ ファイルを削除して、再インストール用に /var ディレクトリの領域を解放します。

ポッドマン

```
podman system prune --all
```

Docker

```
docker system prune -a
```

コンソールからコンソールエージェントを削除する

エージェント VM を削除した場合、またはエージェントをアンインストールした場合は、コンソールのエージェントのリストからそれを削除する必要があります。エージェント VM を削除するか、エージェントソフトウェアをアンインストールすると、コンソールでエージェントのステータスが **切断** と表示されます。

コンソール エージェントを削除する場合は、次の点に注意してください。

- このアクションでは仮想マシンは削除されません。
- このアクションは元に戻すことはできません。コンソール エージェントを削除すると、再度追加することはできません。

手順

1. ***管理 > エージェント***を選択します。
2. ***概要***ページで、切断されたエージェントのアクション メニューを選択し、***エージェントの削除***を選択します。
3. 確認のためにエージェントの名前を入力し、「**削除**」を選択します。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。